



ご存じですか？



今後30年以内に震度6弱以上の地震が発生する確率 千葉市が最も高い85%

(地震調査委員会 平成31年1月発表)

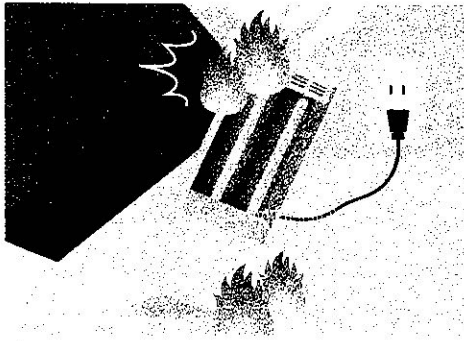
阪神淡路大震災や東日本大震災で発生した火災の 6割以上が電気に起因する火災とされています。



地震による火災には 「地震発生直後の火災」と「通電火災」があります！

地震発生直後の火災

電気器具が転倒し、可燃物と接触する
などして起こる。



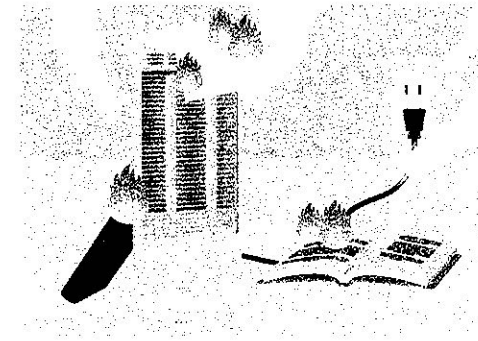
◆地震発生時の電気火災例
重い物が倒れて、壊れた電気製品から発火

通電火災

停電が発生し、その後電気が復旧した際、可燃物が落下した電気ストーブや破損
した電源コードなどに再び電気が通ることが原因で火災が起こる現象。

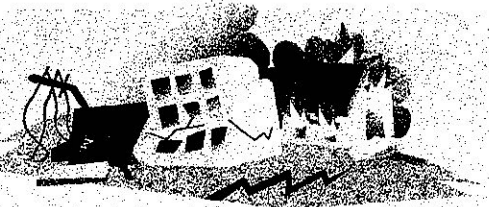


◆地震による電気火災例
電源コードの被膜が破れて短絡(ショート)に
より発火



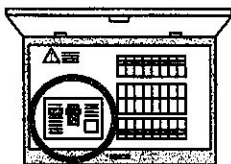
◆復電時の電気火災例
復電後、電気製品に落下した可燃物から発火

地震による電気火災対策には、 感震ブレーカー等が効果的です。

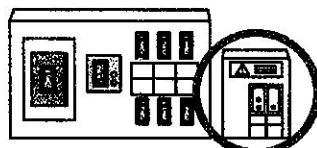


感震 ブレーカー等 とは..

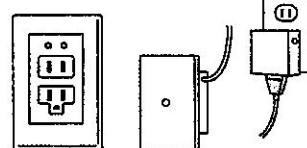
「感震ブレーカー等」は、設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。



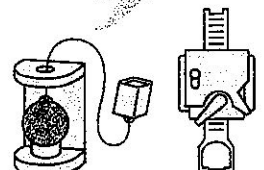
分電盤タイプ(内蔵型)



分電盤タイプ(後付型)



コンセントタイプ



簡易タイプ

電気火災から、家・地域を守りましょう

通電火災にご注意ください！！

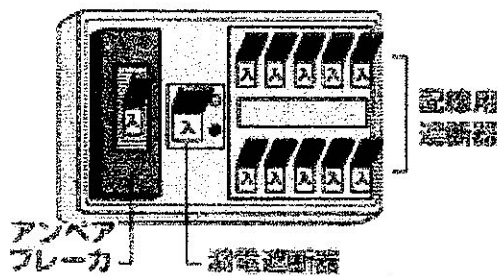
大規模な自然災害が発生した際は、広範囲で停電が発生する可能性があります。

停電から電気が復旧した際に風雨や建物の傾斜・損壊等によって傷んでしまった電気配線などが火元となって起こるのが通電火災です。

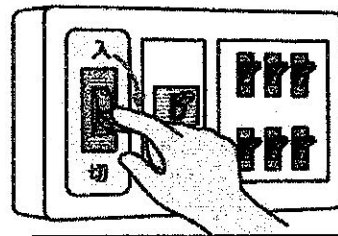
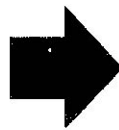
◎停電したとき気を付けることは？

自宅から離れるときは電気のブレーカーをおとすようにしてください。

電気が復旧しても、家人不在時に通電しないように「ブレーカー」をおとしておけば通電火災は防げます。万が一のことを考え、避難時は慌てて外に出る前に、「ブレーカー」をチェックするというところをこころがけてください。

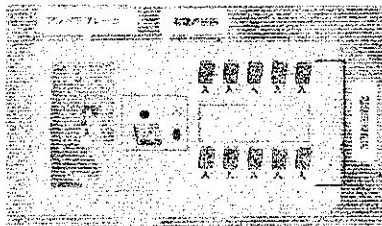


※一般的な分電盤の例です。

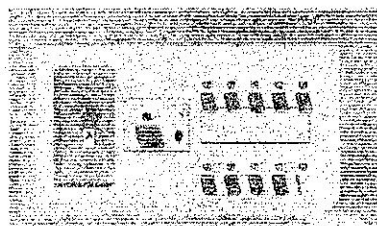


スイッチを「切」にします

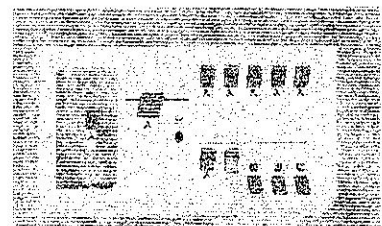
◎停電後の復電方法は？



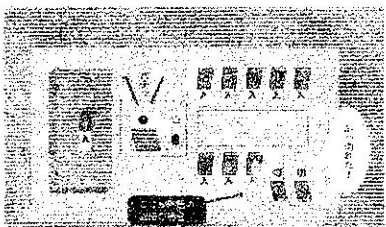
1. アンペアブレーカーのつまみが「入」になっていることを確認する。



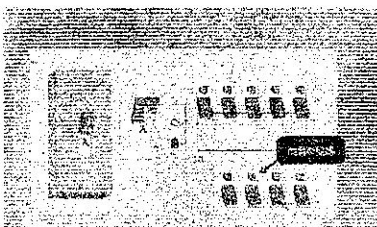
2. 配線用遮断器のつまみをすべて「切」にする。



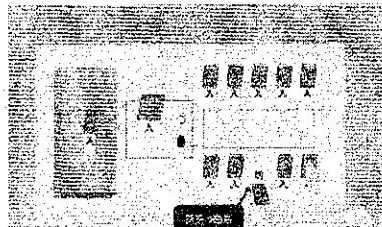
3. 漏電遮断器のつまみを「入」にしたあと、配線用遮断器のつまみを1つずつ「入」にする。



4. 問題のある回路の配線用遮断器を入れたときに漏電遮断器が切れたら、その回路に漏電の可能性がある。



5. すべての配線用遮断器を「切」にし、再び漏電遮断器のつまみを入れる。



6. 問題のある回路以外の配線用遮断器を1つずつ「入」にする。

出典：東京電力ホールディングス株式会社より引用

この資料に関するお問い合わせ先

千葉市消防局予防部予防課

☎ 043-202-1613

